Yokohama Choral Society

横浜合唱協会
第64回定期演奏会

2014年10月26日(日)
横浜みなとみらいホール 大ホール
主催：横浜合唱協会

横浜合唱協会 第64回定期演奏会
ライプツィヒ合唱音楽の系譜

J.タイレ（1646－1724）
Missa Brevis
ミサ・ブレヴィス

D.ブクステフーデ（1637頃－1707）
Nun lob, mein Seel, den Herrn BuxWV212
今ぞわが魂よ 主をたたえよ（オルガン独奏）

J.S.バッハ（1685－1750）
Ich lasse dich nicht, du segnest mich denn BWV Anh.159
私はあなたを放さない、あなたが祝福してくれるまでは

F.メンデルスゾーン（1809－1847）
Singet dem Herrn ein neues Lied. op.91
詩篇98番 主に向かって新しい歌をうたえ

── 休　憩 ──

R.シューマン（1810－1856）
Vier doppelchörige Gesänge op.141
4つの二重合唱曲

J.S.バッハ（1685－1750）
Nun danket alle Gott BWV657
いざ もろびと 神に感謝せよ（オルガン独奏）

J.S.バッハ（1685－1750）
Fürchte dich nicht, ich bin bei dir BWV228
怖れるなかれ、私はあなたの側にいる

指　　揮：八尋 和美
オルガン：山口 綾規
ハ　ープ：中村 由美子
チェロ：伊藤 惠以子
コントラバス：諸岡 典経
合　　唱：横浜合唱協会

ごあいさつ

本日は横浜合唱協会第64回定期演奏会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

今回は、昨年に続いてのア・カペラコンサートとして、バッハを初めとしたドイツ・ライプツィヒに縁のある作曲家の作品を集めました。伴奏楽器も当時の様式感に近づけるべく曲目によって工夫致しました。ア・カペラ演奏のハーモニーの色合いと伴奏楽器とのコラボレーションを楽しんで頂ければ幸いです。

私どもは来年9月にドイツ演奏旅行にてライプツィヒ聖トーマス教会での演奏及び現地合唱団との合同演奏会を計画しております。引き続き皆様方のご支援をお願い申し上げます。

2014年10月26日

横浜合唱協会 代表　堂崎　浩

プロフィール

八尋 和美（やひろ かずみ／指揮）

東京芸術大学声楽科卒業。声楽を矢田部勁吉、指揮法を渡辺暁雄の諸氏に師事。芸大卒業と同時に東京混声合唱団の創立に参加。以来、東京混声合唱団のコンサートマスターとして、同団のトレーニング、編曲、指揮者として活躍。1973年、東京混声合唱団指揮者に就任。同団との全国的な演奏活動の他、アマチュア合唱団の指導、合唱指導者の育成にも優れた手腕を発揮している。1982年、文化庁芸術家在外研修員として旧東ドイツを中心に研鑽を積む。1997年、東京混声合唱団正指揮者に就任。現在、くらしき作陽大学客員教授。横浜合唱協会は1973年より指導。

山口 綾規（やまぐち りょうき／オルガン）

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。東京芸術大学音楽学部別科オルガン専修を経て、同大学大学院修士課程音楽研究科（オルガン）を修了。これまでにパイプオルガンを大槻由美子、ブライアン・アシュレー、廣野嗣雄の各氏に師事。東京を中心に、アメリカ、中国、マレーシアなど国内外で積極的に演奏活動を続けている。クラシックからジャズ、ポピュラーまで、ジャンルの垣根を超えた多彩なレパートリーには定評があり、例年開催しているリサイタル「オルガン・エンターテインメント」では、自身の持ち味を存分に発揮している。作編曲や後進の指導、執筆など、活動のフィールドは広い。2011年よりクイーンズスクエア横浜のクリスマスイルミネーションの音楽制作を手掛けている。日本オルガニスト協会会員。全日本ピアノ指導者協会（PTNAピティナ）正会員。昭和音楽大学非常勤講師。

中村 由美子（なかむら ゆみこ／ハープ）

東京芸術大学卒業後、フランスに渡り世界的ハープ奏者であるリリー・ラスキーヌ氏のもとで研鑽を積む。ニース国際音楽講習会でディプロマを得、パリにてジャック・イベール夫人主催のコンサートに出演。帰国後フランス大使館文化部後援によりジャック・イベール記念コンサートに出演し「10の楽器のためのカプリッチョ」を日本初演。ハープ独奏、ヴァイオリンDUO、フルートDUO、またソリストとしてモーツァルト、ヘンデル、ピエルネ、イサン・ユン、ダマーズの協奏曲をオーケストラと協演。日本ハープ協会ハープフェスティバルの際には当時の美智子妃殿下のご来臨を賜り若尾英子氏の作品を演奏し好評を博す。日本ハープコンクール2011審査員をつとめる。元東京フィルハーモニー交響楽団ハープ奏者。

伊藤 恵以子（いとう えいこ／チェロ）

東京芸術大学附属音楽高校を経て同大学、同大学院博士課程修了。チェロを三木敬之、R・フラショー、倉田澄子の各氏に師事。日本音楽コンクール入選。1982年から２年間パリエコールノルマルで学ぶ。芸大在学中バッハカンタータクラブに所属し、小林道夫氏の指導の下で数多くの宗教曲に触れる。現在、ピアノ四重奏Ensemble Delice、Luce、ピアノとのデュオPiacevole、ハープトリオなどの室内楽、モダンとバロック楽器での合唱の伴奏やアンサンブル等、様々な演奏活動を行っている。訳書に「ポール・トルトゥリエ　チェリストの自画像」「メニューインとの対話」がある。

諸岡 典経（もろおか のりつね／コントラバス）

東京都出身。国立音楽大学卒業。西澤誠治、故・窪田基の両氏に師事。コントラバスでオーケストラ、室内楽等で活動する傍ら、古楽器（ヴィオローネ）も用い数多くのグループで演奏会やレコーディング、及び福岡古楽音楽祭、北とびあ国際音楽祭等の日本の主要の音楽祭に多数出演。オーケストラ・シンポシオン、レ・ボレアード、エンリコ・オノフリ／チパンゴ・コンソート、クラシカル・プレイヤーズ東京メンバー。同時に、アコースティック・ベース、エレクトリック・ベース等でジャズ、ラテン音楽等ジャンルを問わず活動中。小池吾郎主宰MOGメンバー。東京五美術大学管弦楽団、国分寺チェンバー・オーケストラ低弦セクショントレーナー。青梅リコーダーオーケストラ指揮者。

曲目解説

◆ヨハン・タイレ（1646 − 1724）≪生涯と音楽史上の貢献≫

北ドイツ音楽仲間　フォールハウト画（1674）
タイレ(ガンバ),ラインケン(チェンバロ),ブクステフーデ

J.タイレは中部ドイツのライプツィヒ近郊ナウムブルクで生まれ、1666年ライプツィヒ大学入学とともに、H.シュッツの隠居地ヴァイセンフェルスに出向き、受難曲に取り組んでいた師の下で学びました。1673年に出版されたタイレの「マタイ受難曲」は17世紀ドイツで発展したオラトリオ風受難曲の注目すべき作品となっています。シュッツの死後、1673年に北ドイツのリューベックに出向き、若きJ.S.バッハに大きな影響を与えた、J.A.ラインケンやD.ブクステフーデと音楽活動を共にしました。

そのころの様子は右の絵からも伺えます。

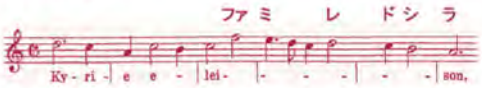
1673年にデンマーク領ゴットルフの楽長に任命され、ミサやオペラを書きました。しかし、1675年に政変でハンブルクに逃れ、1678年には自身の最初のオペラをハンブルクに新設されたドイツ最初の歌劇場であるゲンゼマルクト歌劇場のこけら落としで上演しています。その後1685−91年には北ドイツのヴォルフェンビュッテルで楽長を務めています。次にタイレの音楽史上の貢献を箇条書きにて記します。

- M.ヴェックマン、Ch.ベルンハルトと並んでシュッツの3大弟子で、シュッツの伝統を北ドイツに伝えた。
- オペラ、器楽曲、世俗歌曲等も作曲したが、最も重要な貢献をしたのは合唱用の宗教音楽。
- 対位法作曲では、短い模倣技法で満足せず、順列フーガ、ヘクサコルドやコラールによるフーガ主題、2重対位法を確立させ、バッハのカンタータ、モテット、ミサ曲に引き継がれた。
- 理論家としての主著《音楽の技法》では、対位法の多様な技法を例示し、バッハが〈フーガの技法〉を作曲する際の着想の源となった。それゆえ「対位法の父」と称されている。

❶J.タイレ：ミサ・ブレヴィス「キリエとグロリア」

この曲はヴォルフェンビュッテル楽長時代1686年の作品です。ドリア調の教会旋法による5声合唱です。「第1キリエ、クリステ、第2キリエ」の3部、グロリアは6部の全9部に区切って曲付けされています。そのうち4つの部分で「ヘクサコルド主題による2重対位法」が用いられているのが大きな特徴です。作風はパレストリーナ様式（16世紀ポリフォニー）に、シュッツの対位法が織り込まれたものです。

キ リ エ　「第1キリエ・エレイソン」：ラシドレミファの6音の短調型ヘクサコルド主題（右図）がソプラノIから始まり、2重対位法で下声部に順に受け継がれます。



「クリステ・エレイソン」：パレストリーナ模倣様式です。

「第2キリエ・エレイソン」：ミファソラシドの6音の短調型ヘクサコルド主題で、「第1キリエ」と同様にソプラノIから始まり、2重対位法で下声部に順に受け継がれます。

グロリア　「グロリア・イン・エクセルシス・デオ」：ソプラノI、IIの2声で歌われます。

「エト・イン・テラ・パックス」：歌詞の多いところですが、重要な語句がシュッツ的「声楽技法」によるメリスマによって強調されています。

「クイ・トリス・ペッカータ・ムンディ」：“世の罪”の箇所で音楽が“静”に一転します。

「クオニアム・トゥ・ソルス・サンクトゥス」：活発な動きが戻って来ます。
「クム・サンクト・スピリトゥ」：ドレミファソラの6音による中世からの伝統的なヘクサコルド主題（右図）がテノールから始まり、上声部に順に受け継がれます。
「アーメン」：冒頭「第1キリエ」と同じ、ラシドレミファの6音ヘクサコルド主題で締めくくられます。

全曲を俯瞰すると「クイ・トリス・ペッカータ・ムンディ」が中心となり、前半は主題が下降で推移、後半では上昇で推移すること等から“シンメトリー”の構図が浮かび上がります。

◆≪タイレ＋ブクステフーデ≫から≪J.S. バッハ≫への系譜

タイレは師のシュッツがヴェネチアで学んだイタリア・バロックをドイツに適合させ根付かせた「声楽技法」を北ドイツに伝え、スヴェーリンク以降の鍵盤音楽やブクステフーデの音楽と融合させています。このような活動により、“北ドイツ”は当時音楽の最前線となる活況を呈しました。

その頃、バッハは1700年（15歳）－02年（17歳）の2年間、リューネブルクにミカエル学校奨学生、修道院歌手としてやってきます。バッハはより高度な多声音楽の演奏にも意欲的で、G.ベームからオルガン演奏、充実した音楽図書館にあった先達の楽譜集、近郊ツェレで展開されていたフランス音楽、少し足を伸ばしてハンブルクでの“タイレやラインケン”が築いたオペラやオルガン曲等、溢れるほど豊かな音楽を吸収しました。

ミカエル学校終了後、1703年（18歳）でアルンシュタットの教会オルガニストに就任したバッハは、良く知られたエピソードですが、休暇を取ってブクステフーデが活動していた遠方の地リューベックへ4週間旅する予定が、無断で4か月滞在するほどブクステフーデの音楽に魅せられたのでした。

このようにして、タイレやブクステフーデを経て、伊、仏、独の音楽がバッハに流れ込んだのです。

❷D.ブクステフーデ（1637頃－1707）：「今ぞわが魂よ 主をたたえよ」BuxWV212 オルガン独奏

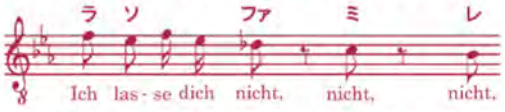
若い時代の曲でハ長調のコラールファンタジー、エコーを伴った作風は前任者のF.トゥンダーの様式を受け継いでいます。

❸J.S.バッハ（1685－1750）：「私はあなたを放さない、あなたが祝福してくれるまでは」BWV Anh.159

この曲は長い間バッハの叔父ヨハン・クリストフ・バッハ作とされていましたが、1988年D.R.メラメドの論文でバッハの作品であることが示され、自筆譜の年代考証等から、バッハ20代後半、ワイマール時代1712－13年頃の作品と推測されています。葬送音楽で、歌詞は聖書とコラールから採られています。当時としては珍しい、ヘ短調（f-moll：♭調号4つ）で書かれ、バッハでも稀な調性で、他には初期カンタータBWV12“泣き、嘆き、憂い、怯え”（晩年、ロ短調ミサ“十字架に付けられ”に転用）で使われています。第1曲は大きく2つの部分に分けられます。

・**第1部**　“シチリアーノ”舞曲のリズムは、“マタイ受難曲”の冒頭曲と同じで、この曲でも二重合唱で掛け合いながら緊密に絡み合って進みます。最後に、第1ソプラノが高音半音階で“私のイエスよ”と心こめた訴えで先導し、8声がそれに続き曲を締めくくります。

・**第2部**　4声合唱となり、同じ聖書の言葉を下3声がフーガを奏し、ソプラノがコラール定旋律を織り込んで行きます。バッハ出身地の伝統技法で“チューリンゲン様式”と呼ばれています。フーガ第1主題“Ich lasse dich nicht私はあなたを放さない”（右図）が下降する“ラソファミレの5音ペンタコルド”、第2主題“du segnest mich dennあなたが祝福してくれるまでは”が“ラファレ”の分散和音と対照的です。



第2曲は4声体の単純コラールですが、後の演奏で付け加えられた可能性もあります。しかしながら、当初からあったことは十分に考えられ、今回は後世の復原編集版で演奏いたします。

◆F. メンデルスゾーン（1809 − 1847）
≪若き日のベルリンにおける“栄光と挫折”≫

1829年20歳のメンデルスゾーンはバッハの「マタイ受難曲」を、ベルリンにおいて合唱団ジングアカデミーと復活上演し、メディアに取り上げられ大センセーションを巻き起こします。ところが、この後23歳の時、ジングアカデミー次期指揮者選挙で敗れ、大きな挫折を負いベルリンを去ります。「ユダヤ人」の故と言われていますが、裕福な家庭で英才教育を受けてきた彼が生涯で初めてぶつかった大きな壁でした。

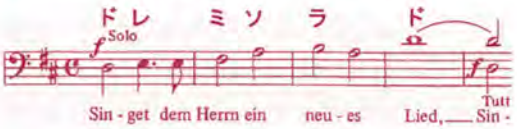
≪大作曲家となり、ベルリンへの“帰還と辞任”≫

1840年新国王F.ヴィルヘルム4世は、ベルリンを文化・宗教でも誇れる都市としたく、典礼の蘇生に着手。メンデルスゾーンが「音楽総監督」として招聘されました。王の要求はパレストリーナ的なア・カペラでの典礼音楽でしたが、最初はそれに応えて8声のモテット（Op.78）等を作りつつ、オーケストラ付作曲について何度か王や担当大臣と折衝を進めました。しかし折り合いがつかず、1845年辞任が認められライプツィヒに戻りました。

❹F.メンデルスゾーン：詩篇98番「主に向かって新しい歌をうたえ」op.91

この曲は国王依頼の一環で、1844年ベルリン・ドームでの新年の礼拝のために作曲されました。

1曲目　アレグロ ニ長調（D-dur）4/4拍子　バスによる“Singet dem Herrn”（右譜例）の民謡風の“ファ・シ”のないヨナ抜き音階先唱で始まり、ア・カペラ2重合唱でこの主題を何度も繰り返しながら進行。



2曲目　アンダンテ レント ロ短調（h-moll）3/4拍子　8声合唱と4声ソリがホモフォニックに掛け合う。

3曲目　アンダンテ コン モート ト長調（G-dur）4/4拍子　歌詞“ハープ、トランペット、トロンボーンで主を称えよ”に呼応して、器楽（今回はオルガンとハープ）が加わる。後半の“Das Meer brause 海よ どよめけ“から長いクレッシェンドとなり、“alle Bergeすべての山”で頂点に達する。

4曲目　アレグロ ニ長調（D-dur）　1曲目の譜例主題が“Er wird den Erdkreis richten mit Gerechtigkeit主は世界を正しく裁き”の歌詞で何度も繰り返されるフガートとなり、“denn er kommt zu richten das Erdreich主は地を裁くために来られる”のユニゾンで締めくくられる。

弟のオーケストラ付願望を良く理解していた姉のファニーは手紙で、「詩篇98は非常に美しく、立派な低音の声とともにア・カペラで始まり、ハープ・トロンボーン・トランペットといった順に、次第に器楽が付け加わり、海の“ゴウ”というどよめきで、オーケストラ全体が壮麗に鳴り響きました。」と伝えています。

◆≪メンデルスゾーン＋シューマン≫による≪バッハ≫復活への貢献

先に記したように、メンデルスゾーンがバッハの「マタイ受難曲」を1829年にベルリンで復活上演したことはメディアに取り上げられ大センセーションとなったので良く知られてきました。

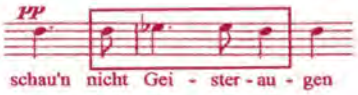
一方、シューマンがバッハの「ヨハネ受難曲」を1851年にデュッセルドルフで復活上演したことは、それほど知られていません。二人とも熱心にバッハ研究に取り組み自身の作曲活動の糧とすると共に、後世にバッハの音楽を伝える大きな推進力となりました。それはブラームス等に引き継がれ「バッハ全集（現在では旧バッハ全集と呼ばれている）」の編纂として実を結び、そのお蔭で我々はバッハを身近に演奏することができています。

❺R.シューマン（1810−1856）「4つの二重合唱曲」op.141

1849年の作で、巧みな調性選択と一連の調性展開や3つの「動機」にテキストにあった性格を与え、それらに変奏を加えながら全曲を通して用いて、曲集を貫く詩情“ポエジー”を生み出しています。

各曲に現れる「半音が上下するだけのシンプルな動機(譜例)」が絶妙な詩情の変化を生み出しています。

1曲目　星に寄す ト長調（G-dur）4/4拍子
4節の有節歌曲のようで、"Sterne,in des Himmels Ferne!天高くきらめく星よ"が各節の冒頭におかれ、歌詞を変えて各節に現れる右図の動機が陰影を与えます。



1曲目：魂の眼が眺める

2曲目　おぼろな光 ロ短調（h-moll）4/4拍子
厳しい自然に挑む若者は、やっと光（右図）を見出します。そして激しい転調、"それは愛か、死か"の問いで結びます。

2曲目：遠くでかすかに光る

3曲目　信頼 ト長調（G-dur）4/4拍子
"Nach oben天に向かって"のメロディが繰り返される中、希望（右図）が現れ、後半に入りバスが低音の"G音"でずっと"wenn dir die Liebe bleibt君の愛があるなら"を支え続けるのが印象的です。

3曲目：君は希望を掴む

4曲目　タリスマンというお守り ハ長調（C-dur）3/4拍子
歌詞はゲーテが中世ペルシア詩人との邂逅を通じて人間存在の普遍性を詩的に紡いだ『西東詩集』から引用。「東も西も神のもの」がフォルテで力強く繰り返され、"Ruht im Frieden seiner Händeその両手の平安に憩う"と右図の動機が優しく応じます。

4曲目：平安に憩う

❻J.S.バッハ：「いざ もろびと 神に感謝せよ」BWV657 オルガン独奏

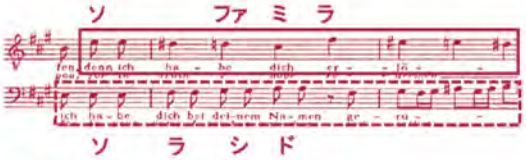
ト長調、4/4拍子で、パッヘルベル風の様式で、「古い木版画のような純粋さと力強さを持っている」と、バッハ研究家のガイリンガーに評された曲です。

❼J.S.バッハ：「怖れるなかれ、私はあなたの側にいる」BWV228

自筆譜は失われバッハ近辺の人物による筆写譜のみ現存しています。多分ライプツィヒ時代初期の葬儀曲と推測されます。歌詞はイザヤ書によっており、第Ⅱ部のソプラノ定旋律は、P.ゲルハルトのコラール「なにゆえわれ悲嘆すべき」(1653) からの詩節です。形式上は先に演奏したBWV Anh.159と近い位置にあります。前半第Ⅰ部は"前奏曲"、後半第Ⅱ部は"フーガ"からなり、オルガン曲の「前奏曲とフーガ」のようです。

第Ⅰ部　イ長調（A-dur）、4/4拍子、8声二重合唱が歌詞を段落毎に交替しながら対話形式で進行します。バスが"Ich stärke dich,私があなたを強くする"と神の声を語り、合唱が次々にこの言葉を変奏して歌い継ぎ、さらに次の句"Ich erhalte dich,私はあなたを支える"が変奏されてソプラノIから下降し8声で繋ぐ鮮やかな締めくくりには、「北ドイツオルガン学派」の影響が感じられます。

第Ⅱ部　4声合唱でソプラノが定旋律コラールを担う"チューリンゲン様式"に基づいたものです。



主題"denn ich habe dich erlöset,私はあなたを救う"は、下降半音階（ラソファミ4音のテトラコルド）。
対位主題"ich habe dich bei deinem Namen gerufen, 私はあなたの名を呼ぶ"は、上昇全音階（ソラシド4音のテトラコルド）。

この2つの主題が、「神の声」と「人の声」の象徴でもあり、6小節単位で、6回繰り返され、かつダカーポされ、(6小節×6回）×2+5小節のコーダ=77小節となり、第Ⅰ部に等しい小節数となって、シンメトリー構造を形成しています。タイレが確立した2重対位法も何度も用いられ、「6小節単位の繰り返し」は葬送の祈りのように響いています。

藤井良昭（会員）

横浜合唱協会

横浜合唱協会はJ.S.バッハ合唱作品の本格的な演奏活動を目指して、1970年に発足したアマチュア合唱団です。以来、会員自らの企画の下、古典宗教音楽を中心とした演奏活動を行い現在に至っています。J.S.バッハを中心に据えつつ、パレストリーナ、モンテヴェルディ、シュッツ、ヘンデル等からメンデルスゾーン、ブラームス、ブルックナー等のロマン派、マルタン、ペルトなど近・現代の作曲家に至る作品を幅広く取り上げています。

指導陣は、東京混声合唱団の元正指揮者である八尋和美氏を常任指揮者とし、ピアノ伴奏者に谷口明子氏、松尾地恵子、木島千夏、小林彰英、佐野正一の諸氏をヴォイストレーナーに迎え、音楽・発声の両面から指導を受けています。これまで63回を数える定期演奏会では、小林道夫、若杉弘、黒岩英臣等の諸氏を客演指揮者として迎えました。1997年と2002年のドイツ演奏旅行では、バッハ縁りのライプツィヒ聖トーマス教会礼拝式での演奏、タールビュルゲル夏の音楽祭などドイツ各地での公演を通し、大きな足跡を残しました。バッハ没後250年節目の2000年は創立30周年にもあたり、現トーマスカントールの G.C.ビラー氏をはじめライプツィヒ関係者の協力を得て記念演奏会「BACH FEST 2000 TOKIO」を開催し、大きな反響を得ました。2004年には G.C.ビラー氏の指揮のもと「マタイ受難曲(初期稿)」を演奏し好評を博しました。2008年夏には第3回ドイツ演奏旅行を実現しライプツィヒ、シュトゥットガルトなどで演奏を行いました。

正会員

[ソプラノ]

長尾　里美　平鹿　諭子　飯島　純子　新谷　暁　須賀　由美　藤井　節子　魚本　充子
山田　都　志村　知子　高田　文子　青柳　敦子　広庭　恵美　河野　敦子　渡部　園美
土田　紀子　荒井　直子　松尾　裕子　北村千恵子　川島香菜子　北原　規子　前田　佳子
大塩　亜季　小野　早苗

[アルト]

堂崎　律子　大杉　純子　新井千鶴子　中野　理子　和田　京子　馬岡　洋子　市川　浩子
西田　和子　岩附美知子　山本久美子　藤井美智子　堀内　陽子　中山　典子　新井　光恵
水越　淳子　鈴木理絵子　那須比奈子　保田　康子　田島　京子　柏木梨重子　山崎　裕子
今城　明美

[テノール]

藤井　良昭　堂崎　浩　馬岡　利吏　土井　賢一　松本惠太郎　古根　正治　清水　光洋
岡田　亮介　長谷　雅信　和久井一男　小田　稔

[バス]

新井　隆士　大石　康夫　飯島　龍哉　天ケ瀬圭三　山田　直樹　小澤克之助　松田圭一郎
若狭　保弘　梅原　俊之　高橋　誠　平鹿　一久　安積　和彦

維持会員

丹内紀久代　鹿島　和子　児玉　弓子　伊藤　邦子　気賀沢忠文　新居　康彦　竹村　重雄
万年　武　富澤　尊儀　清水　正子　梅津　実可　中山　元子　武田　サヨ　柴田　秀男
山岡　千秋　佐久間貴美　安広　百代　中西　牧子　入澤　三徳　藤井可奈子　中村小絵子
松下　孝　佐々木聡子　吉崎　桂江　友田　晃利　八尋　直美　鈴木　園子　林　雅子
柏　聡子　久保　祐子　村木誠一郎　勝山久仁子　西連寺利絵　入澤　洋子　鈴木　康司
山下　誉子　小野沢　誠　飯島　幸子　魚本　一司　平井　聡子　平井　透　茂木紀美子
石川　鮎子　笹井　平　柴田　英治　吉川由里子　国分エリ子　小見山雄次　雀部　征宜
鳥山　純一　津守　滋　土井美智子　森岡　剛　白石　洋子　日沖　憲司　本多　志織
加藤　拓朗　松田　久美　岡崎　希枝　山口　綾規　田川　正浩　木村　美保　森岡　美紀
長谷川由里子　山田多佳子　恒吉　理美　市川　純也　中村さえ子　西脇　弥彦　古宮真紀子
太田　明子　川越　信彰　谷口幸一郎

横浜合唱協会ホームページ　http://www.ycs.gr.jp

表紙：ドイツ・ライプツィヒの聖トーマス教会